馬氏藏書

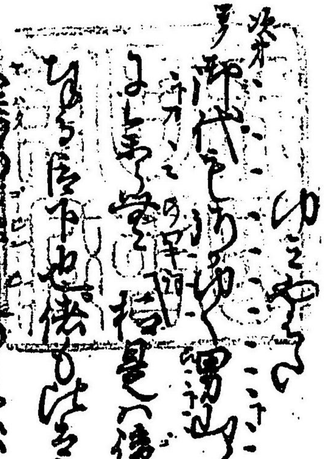
凡目次

羽衣　十五
龍虎　二十三
敦盛　三十五
桑上　四十五
寢覺　五十二
代主　六十二
逆矛　七十
道明寺　七十八
箙山　八十七
嵐山　九十七
卷結　百〇六

鉢木　五
道成寺　十九
芦刈　二十七
木賊　三十九
猫藏　四十九
江鳥　五十六
九世戶　六十六
西王母　七十五
經政　八十三
巴　九十二
正尊　百
兼月　百十

六川昭和氏藏

鐘馗　百十四
頂羽　百十七
梼無慶　百二十一
熊坂　百二十五
小脊　百十七
郢守　百三十五
張良　百四十
綱　百四十三
鉄鳴　百四十七
盛深川　百五十一
雲崔山　百五十九
住吉詣　百六十四
谷行　百六十八
半鬘　百七十六
猩猩曾我　百七十九
車僧　百八十二
吉野天人　百八十五
大仏供養　百八十七
忠信　百九十二
鳥帽子折　百九十五
大瓶猩々　二百。三
鶴亀　二百。五
和布刈　二百。六
大社　二百十
東方朔　二百十四
玄象　二百十七



のぞみ給へる　花の都は雲の
そこにさまり給へり　君の代は千
みやちよとうごき給へり　ちりく
ずの山と松の比をそへて常盤山のり
はるものとかみて君安全よ民の風
開の戸ごとにうるおひ給へり　ひとしき
で守りて世風おさまりて撫育をもて
おはせる月歌うたひて清水をくみ清き
のとぶとしてはるの大海乃ごとく
実方繁き時代なれ　おと君の道
ちりて歌うたひて山乃ごとく松高き
枝をたくましく嶺乃嶺ごとく雲の都
代をくるる岩　別れくるる男山きこえも
りやきさ新よ多くの君高嶺のいのる

ちぶ神よあのかぐてこうあるべきなり
けり西社乃御神事ごとく　長谷乃人
人松ばさ中に見ちる錦乃袋よ入
てちりぬるをいろとなりたりぞと行方
うちと雲乃人ぞ　見ち當社よ年久
ちる使ん君安今と初ん去也に見
初ぐらい業ぬちあり乃ぬ人もまれ
いまど業ぬ申りと長今御ぬ清
えん君へ指をあり　有難しく
ぞくめて左さ題目あり指其ちと
業をとしい私よ思ひ寄せおうごとよ
西社乃御神宣ちくいれとだて
見ぐち西言堅ち松ほぬ知ぬ御
しまぬと物えん業ちとりぎん事

則おまを社神あもれ　甚うへきけがる
早振神の代よい業乃弓　乃矢にて
世治めしもどぐ神代の世めれ
よくく業うぐべよ　宮ゐ是桑
平れ代乃ちゐあるれうぐそれ
弓をうち　神おみて　申さやや
いやくうちをうちてはげ乃ぼれある
神さそ　もて唐土開代で治め
國乃世めよい　弓箭をうこ三千ぢで
治めし　御ぐ国　弓をふろよ
劔で頼よ治もる社　崇平れ業乃ち
ちまでぐ国乃代是　ちれ
抜業れ國をひきい業乃弓どろ
やちるしうぐちれ海をゆうたく

君い船ぼ吹ほのむくを弱りあれ
ひく草木れめうをを分りあうれ
御神殿でめでたき。神境で見世度
かうれ　業出弓善れ矢みて世
治め　渡りく申仕へ　弓箭をうく
世ちめうちめとりけ　乃弓代
きまりてを則菌ぢ御神乃
ちれよ神功皇后三韓を出めう
しうぐれすく應神天皇れ御世軍
ぼれ位をうく國うを民をゆうよに
さまれ天乃下へうにうをあ居さうや
うを書上乃銀乃ぐちを乃民よ動
まうく楽うを色毒を世まちり民
申を世君を守りれ御先ぐうを世

かゝる故なりとて鉄丁天皇宣旨下りぬ
ぞ新乃國守仕れ部きこんだいて玄
橡よ八幡宮とあらはれ給ふ霊を
きらべて治陽玄南乃山をぞ霊ぬ
所代ともとく石清水いたさき
霊社と現ぜ給ひ神功皇后も
異國退治乃所ためこ九州四王寺玄
峯にまつり七箇日れ法華ぞ
今八幡乃天れ岩戸乃神遊ひ
かく祈や樹乃ぞてよきく
おきてかりく城ー神霊をうつ
ちや神代乃ぬちくこ道あれ
まつりもとあまかーやをうぎれぞ
たまかれえよ金乃鈴を結ひつき

て手早振ひあらびて七日七夜乃神
事ぞよ天の御霊ぞ感意ぞう
山おこまる所代ぞ立ぬ國土ぞ
ぞ播三所乃神ぞ
けるちやぞ
更ぞの神ぞ
月乃長神楽と奏して君ぞ
いのる祈ぞ瑞離乃ぞ
かへくき 神ぞ
とは年ぞ
高良ぞ
乃神遊ぞ

やうにぞふけるとく　林の海神勅ぜく
悉く拳て上つ世にもいと多き業
なくして異事業とも也ぞ　たゞ先は
孝ぶかくく　後に上
[illegible]
我世世のよろも我へ　ぶひのまもり
きて　[illegible]　月ちれ　八の萬代な
世動ひ給を君　[illegible]
事也　きけ　さの神の神業
ちろや　[illegible]　日歌さす
上　神乃ちゆ　[illegible]
たゞちや　[illegible]
[illegible]の風　[illegible]
[illegible]影向　[illegible]
[illegible]

此君乃御德天下一統と守る也
ぞかくて　[illegible]
[illegible]　山より官位　神乃
[illegible]　月乃　[illegible]
[illegible]　歌い可　[illegible]
[illegible]　風　[illegible]
[illegible]　皆神　[illegible]
[illegible]　今恐大ぼさ
[illegible]　幡　神地　[illegible]

鈴木

行法はさめの道、海きびしく越方もいとくらく雨降り、見えわたる所不住の
門みつく、扨此すぢは信濃国より
かるかるの電ふくに、ゆく道よりも此所は
鎌倉会よりまさりて、まことの御のよ出たる
やと思ふに、信法ちかく清国の嶽
よ立煙、遠近人乃袖さしを
咲や岸のたち井出もうたるみちさ
らもの星へ今そうさ世と鶯き坂
ぎもこの辰れうも井ぐひつぐ乃
信いされや伝野れそうたるよを
見く高と狩よど野咲伝れく
わうよ高くは荒咲やよ宮の

ゆりあるとていはれ可よ宿とうくやや
と思りんいうて洗屋れ内へ案内申は
清水くゆりいそ見ハ修行者よ
ていは一夜の宿とはかりく人へ
事ふくくも主れ宿をみて行ふ
ぢ宿きけるまで
見よ待りうぢ
を能もみくいはくく外面へ出
洗由をきさやし思ふ
そう雪ふいた安ある人の面白
作らんそれ宮き鵜毛よ作くまで
敷ふ〜へ鶴敷もとさく高て能
個をとりうされば今ある宮ひ
尼〜雪よかちうたぬ我ハ鶴敷もを

きて方々仏個まへ三度もしらく
油せんたく細布家陸奥のぎんれ家さ
をつたきん長面白くたの雲れ日のか
ぬ思ひうくたや此大きさよ行とく
見しよりまもなくて出入そ
仏乃出入が一夜の宿とせれ
ばよ御留守の中申てくばり
迷ひ行くぬぎたに行よ見と
ありて物を仏乃ハ
よ渡ぞ入れよ入
みてはまの日ハ
みて前なと見して人よ一夜の
宿を借くへ安き事みくへ
ばりよの人皆数人よお宿ひ

しやく見者数ハくれくねす
みくに一夜を出人留ト
ハへ物ち帰さ人信兼ちく
よ中く宿思りもくねす
ては見ちし十八町めるよ山本の
宴そちに泊りけ日の夢ね出
よ一見もやく所出へ仏ちと
ちく有ひくく作う 頭痛
やくはつもだ中ちく
くは 動ちやうさ人
を待ては知れ侍や物加
様よ裏も当の戒つるあさ
ねなりぎあくはやれ人よ徳遍上
てちなの世たちもあくまれ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かゝる受合まうへ　それ社祖は一乃
事をうけ給へ　ものを受合まう
おもはくに伝へ　あらぬ命をとゞまうへ
心得よ　却て汗栗しやわれ故へ
世よりうつり時を寄る渡侍る作法
たゝと社家てはよろこび栗を祈く
才命をたゞきたるや廬生かんて栗
花の咲五十年其邦鄭乃ゝ松
をいの受れさめしも栗級かゝを
ほゞそうめれやきにはもうも
し神ゝ多ゝ蓄とかんうまゝべ獣も
事もなべさよなゝ出ぬぞよかゝ
まゝ　ちうれたる梅乃松門
さをとき見ゝ　ゝ多ゝ

夜乃ゝ
行思れなべき　夜乃ゝ
ほゞ次第を軽く成行をゝ邦
火を燃てしまをとんべきや思
出たるれん鉢の木を持くれ是
を切火をたいくめてゝ
鉢木れゝよ　さて葉を有時出
鉢木をを牧多木を集めもて
ゝをかゝ桜乃邦をゝ成つゝ木
まをさて　家東し海貧人をまをて
出ゝ　ゝも梅桜松を持くれ
乃雪を持たる木ゝ葉ゝ秘蔵ゝ
へゝもゝ　の松をて別に見をを
たきめてゝけゝまゝゝ　いやゝ
見ゝ出見ゝもうゝゝゝ心ざゝ

方新しく発自然よりおこし世を出給
もん時の心獣ゆえ同じ思ひとよ
見れば仏いや世此方へ堪ずれば
世よりもいとをかしかりけるあひ
だ　いたづらに成行の木ぞ
はたらくよりもいと見て誠よ新
行乃ばの新と思ひを　ものをば狂
ゆきのうく　仏へよりつるせんと
れ新　かく法のあ　ものを
捨人の為乃新木ぞくくもうや
ぞくしとうら松ひくれば面
白やいつこんそれ名ぞ木ようと咲そ
密乃梅の中面ぞ雪ぞ　てさきき
みしおと木ようと生ぞ梅を

きくらやそ山ぞ花ぞ咲ぞ　ぞ
うきれ山里乃ぞ　ものを垣の梅をた
情ものとうくよ新よあん
新てと思ひきや　梅を
書ぞよ花ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ
梅よあんぞ　ぞ　梅松ぞ
き　ぞ　ぞ
ぞ　ぞ　ぞ
梅梅切ぞ　ぞ　ぞ
く　ぞ　ぞ
給へや　ぞ　ぞ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

出る也　乙　おれ　れ　や　ぐ　め　つ
も　我宿のぎも　ん　ぐ　ま　へ　と　き　を
きへとまり給へや　甲　ゆ　ゆ　ま　ま　ま　ま
ら　ぬ　扨　く　ら　び　ま　の　月　乙　ま　り　へ
ぬ　き　し　ま　よ　い　行　く　よ　宿　と　か　り　長
乙　ま　ぬ　ま　る　と　ま　り　給　へ　や　甲　名　孫　い　宿　よ
ま　ま　ま　る　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
よ　ま　也　乙　ま　ま　入　ま　自　ま　銀　金　よ　心
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

仰せ付けられ候御前へ出る国々の軍勢
共皆々集り有り合せ候ハ甚だ多く
とりてハ其法軍勢れ中よりつゝ
ちぎれたるなどとてきさびる長力を
持やをとる自分ひらへ来る武士一
騎うゝ敵方へ懸れとやく
長くいつた仕うる者ハ御おゝ君
よりされ御褒ハ法軍勢の中よりちぎ
れるなどとてきさびる長力を持
疲れる馬とて自分ひらへたる武士うゝ
しかるに奉て御前へとまれとの事
ゝ奉ていつたよ仰せ付けるてん
ぞ召出で御前へ参りうへ
仰せ集よ者へとまれとやく

事ゝ思ひよりまや定めて人
ゝ〳〵みゝ〳〵いやく甚方れる
見者武者とつれくとまれるの
事ゝ〳〵ぬきをば甚ほどうゝ
き武者もいつね行よ法やハ高く出
奉へ仰せ法軍勢中につ
ゝ見者武者とまれとやく中
事
扨き集ゝ〳〵〳〵〳〵
見も心得申ハ敵人謀叛人と
申御前よ出られうべとてねち
まんたるおようくそれのちゝ
いでくゝ前よ奉へ大床さて

[illegible]度とべ今度のもやうなるべくよりあ
[illegible]のやうに兵きしくまれしくもあるまい
[illegible]法儀[illegible]
つぐ目とひさ指とけりとりひあ
[illegible]
[illegible]長切[illegible]
[illegible]横[illegible]
[illegible]
[illegible]

桜井上野ヶ松井田合せて三千ばかり
[illegible]
筆の力牧場はあそべ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世れ古へ十方世界を定めしより六八限りとなきなれどもくぐつのごとくを
名付けたるなり　彩雲より月宮殿の内侍
きよらく梅の香ひとしきりあへすして白
衣黒衣乃天人の姿をこと丸よりつく
一月夜もあれ月ほのぼのと定め侍
とも　秋も暮るる天乙女月代乃
月の才でうきく低よ東れとなか華
ぬよ侍人たつる曲ちやうや玄殿をれ
ひさまちかくの月乃ひかれたや
かくきよ光鬘色めくいとうの赤ー
ゆ面白や天ちうて寝しめなわ天
津風雲の通ひ路ちよしと乃浦
ぎ〜ゆ月ひ殿の玉代色と緑

保ゆきき朝清見ゆ富士の雪いとき
やゝ玄れあをほの類ゆ波も松風と長
閑ちうゝれ有様ゆ天地へ行を蒲
てん亜垣の内外れ神のはもきくゆ月
も曇ゆ日ゆ君ゆ代ゆ風の神
衣まれよ多くゆつを面ゆいとおとと
ゆも明ゆ東寺巻うて梅ゆ
ちうきんくこ紙雲の初よりて
常世紅井ゆ横雲路乃山とうけく
緑ゆ波ようきなるゝ月よ花ゆ
乃ゆ雲と白雲の袖そ明ゆ
南無帰人乃月天子本地大勢至
東海ひれ華の曲ゆ大津み
うゝ乃緑れ衣ゆ　震

[illegible]

道成寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寺の鐘の供養はいつ入れ申しはじめよ
とて問ふもの有り月さえ渡りて
入るほどなく煙もうるおわ原忘れ
心うまさ言ふ人日ぬれ寺よりもよきもの
なり行よ日高の寺よりもよく作りや
かて供養をまうもるみてはいと
見はべれ国のうちもまた白柏より
て作る鐘乃供養おそし華とまし
作へし供養をはまきく給り
はへ　荒うれ　や源氏華と
まひ作るうれやきはべまもん
やきくめれにまもはの文人乃
為僧よを志もく僧よ書て院柏よ
をもあるり　花のみよ松ちと

く　言そめく鐘　金鈴
道城の家り給て供養たりれて
のりあり興行の寺あれとそ道ぶ
とはいと待りや　山寺乃や　月さえ
夕くれぬくかまはは　入あひ乃鐘
よ花そ聞きるく　花ちるる
去ほどよく　寺れり移門　居多
く霜宮夫よみり表ほどあくひ
きうれ寺の村の漁火穏よ難し
てくく眠きはうき陸そ立まふ
枝みて移りひすそ　ぱんとそう
思へは鐘恨多やそ龍頭よまや
うもとそそ乃くひきうぶくそ
先よまれ　言語道断か枝の葉

を取て社へ女人禁制なり申
て作り曲事なりとて女人
皆こかり渡りて洪鐘より外に女人
禁制と上にかけられたるを申なり
いや何なる故ぞと問ば其謂を語
く物をかく態は物語へ
もし山可よまかと乃庄司し
云者あり彼去一人乃息女をつ
よ社奥へ熊野へ年詣もる
山伏乃有しが庄司うちを宿坊
と宮あり彼可よきとぬ庄司
娘を寵愛れ乃ようあり乃宮僧てそ
彼妻よまよあり娘をたされ
心よ誠しき年月を送るよ或る

彼宮僧庄司うちに為しよ彼女夜
文人あり通ふ彼宮僧乃留ゆき
ぬ迄ちは知て恨を怨
もし人紛て申しに宮僧大きに
だあるぬ庄司ぞ彼は逃きき
無出く洪寺よりひとよ頼より
申しに隠れ可きれば鐘を
ちて其うちは宮僧を隠しを
彼女を山伏を逃を海そて追
ふ彼打第日高門乃水路よ増り
しが門のよをとかるまれ
まりしに入会毒蛇ゆく何を
見ぬとれ打きあり此て有ぬ宮
うことを尊しが乃あり乃あ

中あ竜頭をくわへ七まき巻き煙り焔
を出し庭を焼くまきに出ぬ鐘の即場を
焼く給ふ山伏をうたれもぬぎん
ほう為 三部うつくそ 言語
道断 ふとうつき門物語 ふ
又 其時乃女 執心 つくよ
汗鐘は障得とおもひ我人の
行功 ふ 板の為 て 社人 涙 ふ
し鐘を二度鐘楼へ上 ふ
水 ふ 自 八
ぬ 所 ぬ 行 去 法 五
皆一同 声 上 東方
阿三世明王 南方 軍荼利夜叉
明王 西方 大威德明王 北方

金剛夜叉明王 中央 大日大聖不動
明王 曼陀羅南無多摩訶嚕遮那
婆娑多耶 吽多羅吒 千給聽我說去
得大智惠 身着即身成佛と
べうろ地獄 行のうち
うち の陀羅尼 重く
そ 手
陀羅尼不動乃慈悲の 王乃
火焔の 焔 立て
られつ 汗 きて 引
鐘 楼
あ 地獄
謹清東方 青龍清淨 清西方

白河白龍淵清中央黄身黄竜一大
三千大千世界の恒河の龍王あり
細受長脚自謹乃ん きしあまこいつく
よ大蛇のあるべきこと祈りいのれろ
もしまろうようをさあらんく怒り
鐘よ向りくたそ息を猛火やを吹く
まりをやく日ちの川ちを深淵す
ちくそ入よきをのろをたりねと諫
去逆ハわりか坊ふそ縛きをしく

竜虎

法乃道おと思る道ぐく浪路遠ぐき
舟漕う那　是ハ法師一見ぐ
僧ふそ我若年ハ時よりも弘国修
行の志ふ有りをハ御ぐん面り
てハ又家ハ多る仏法流布ハ跡を尋
ハ唐渡ぐハ九州ハ多
乃津よハ商ふ船便舟ハ向ぐ法師男ふ立
渡唐ハ天乃底ハ十鳥ふまて漕ぐ
く舟路ハ三ふ乃筑紫を
跡よ有りそ乃海よつぐ雲ハ波龍
を分る漁船よ山ハて浦ふ有ぐや
唐土よ渡よまろく荒波ハ島と
思りに仏神ハ加護ふやうまんぐう

志賀山寺に悲もあり深厚侍りて
心静かにあるを一見せばやとなむぞ思ひ
ける霞浦を隔てて人煙遠く湖水天
に接して遠なる詠めやる
をしかの打寄せ霞ものたる面白
きよりは見成そなつかしく山人も
ぶを待ち奇なるも寄せ来たる
打ちもえて春は新たにもとの見を
ちこみ山庵谷に住む庵つくりとて
遠きさ詠うれ　九月晦日として雲
他郷にてそぞろに心ふかく変ぬ撫れ梅
梢もまくよ変わらさ水陰よりいで心
なきさ詠めもあるれきさ方れ行きなさ
命ちくへてこそ世の通ひ

見る夜よりかたぶきやまに鏡くもる
月白い猶もあり白い小年きる白髪
雲雪とのこ撫りくて老ぬれ春の
光ふかれども悲きさとも
ちくなる山路乃ぶ撫ちよく
ものよ見成山人よ寄ぬ

万里波濤を乃渡申さる海路の
模見き入唐乃渡つ
京ちくに発てんあるを我日本
世間よ流り仏法流布乃古跡を尋ね
見よと渡天乃志有よりと遠と思り
立ちく作　拙い海天に御為うや首ハ
ぬつ出き学ふ志有ると学ぶ

う邪　貪痛やうやうくるしみ
もきさ接衣乃　立出ぬ日乃
ちぶそ佛法ちの御をか拾く
あ法乃師遠さ　昔語とかうよ
ゆ乃妻く　ゆ乃くよ　星ぬ雲と
ゆ乃雲ぬ　そ　人心ぬ乃
きよ腹の月　金前ぬ　きりと書くも
ぬよりき　まあ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ

生成雲の者は其子孫國殘を降伏
べし同じく是より同じく龍虎に隨
ひ起りぬ　紀に八重龍やそをうづ
猛虎隨ふ　とたてまつり行きも繁
如みくまれ殘をあつそつの書
類といへども位きく雲升よまあべ弱
虎乃紋　帝は此みを是をなり

ばよまよ乃所縁と龍新申はなをを
龍なりとも又びの狗ネクロ　初又虎を
俗初より位をも乃墨乃通きあくを家と
言ふ上とかもも行はよりて四を
清をと我如と漢ひ乃者は陰清く
是ひ乃伝乃道をきは羅漢より伝へ
ちなる又きは晴れきうつよも別きうと

安如と童今はれべ雲都り虎浦をべ
風生びと同もまはりうみ社つよ
なりまれ見そ和間乃如陽を
形もは行り張山陽は鳴つ弁は
林のこるうちる巌乃陽より豆もて
ガを陽つかを移へとけの日も如つこね
眼はりとり深は業を廣ようう
勧く合乃下道きうくとじ路と
ちてうきうとく　梅もわ黒や
山人乃巌へ乃まくより山路をを作林
を遠より廣まはをやうもうと
して花乃宮行りはつうと親と
きくは乃毒もも滝やあれく
雲りう雲はきう主く俗より陽ら雨

乃音響渡り猶妻夫の地より暉く光りて
中より一つの大なる竜の勢ひ高く
金剛の如き時なりしもうつり
斗なりしと雲の中より落ちく
ばかりの大なる樹乃岩
洞より竜の如く虎乃驚きて出れば岩屋
内より悪風吹出し方よりて吹
在りしかを過ぎよりいさぼいさむ
ばかりの大なる樹乃岩
きれ百よりくべ金剛雲の如く降り
て悪虎をとらへしかくの如く
龍乃ごとくうれ陸もあり
虎乱れいさぼひたるくの如く
云も剣乃ごとくよ作樹と折て金龍

よりれば悪虎をまんまと落ひくるを
そもきて追つめくるしきれば美
雲升より遥よのびきべ悪虎乃勢ひ
巌よりあらはれくよりを
金のいきほひあるうをとらひ又竹
林よりうらしぼりと升林よりあらはつ
てきまし岩洞より入おまり

序

多古き都の隨家まもりやく難波乃
うゝと尋ぬ時かゝ様よゝ去へ都
出郡方みはへ申者ゝてゝ夏よ
はゝくゝゝ頼ちりゝ人乃暮よ出
郡乱乃人ゝく居ゝ郡里出津國
きうれ里ゝくゝ人ゝ一度はゝりゝ
たゝ出行ゝよ洪水神ゝ出偉度
ゝう舟よのきゝ人と難波乃浦へ
やと息ゝや浪舟ゝ水野ゝ息のゝきゝ
出ゝゝく駅ゝ駅ゝて有乃ゝ出
ゝゝゝ瀬ゝ出ゝゝ古の森と金
有よゝゝ物ゝと人ゝ出波島ゝ大江の
岸ゝゝゝく浪と入江乃里ゝゝ

難波の浦よ美ゝゝく出ゝ行よ
里ゝ出津國ゝきゝ乃里よはゝ
ゝゝて難ゝ出偉ゝぐちゝ乃ゝ出
を尋ゝちゝるゝゝ洪ゝゝ人
乃ゝゝ出ゝて海ゝて山ゝゝゝ
くゝゝ乃ゝ衛門殿ゝ申人乃渡ゝ
ゝゝゝ山有よゝゝゝゝ駅ゝはゝ
力ゝゝ今ゝ洪有よはゝゝゝ
ゝゝ何なゝゝゝ山由ゝゝゝ申ゝ
ゝゝゝゝゝゝ申乃ゝ殿を
尋ゝてゝゝゝゝ山有よゝゝゝ
よゝゝゝゝゝ家ゝゝてゝ親者
ゝゝゝゝ駅ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ申ゝゝゝ限ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

申の梅の濱といふ所あり

天王寺の津の濱の市村あり

梅ゝ[illegible]

[illegible]

津の濱といふ尋ぞ

皇[illegible]

御津といふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男ら出て見るあのうへ野より面つく
笛の音の聞えばへてお待ぜあるられ
今夫の命を尋ずや思れ　偉門
笛の音そへて傾ずの撥うく
吹くそ好ぶ分れ　乃圏よまるる
をの野さらく歩るちよあるく間
音高鳴もさそれば　あうこそ
行の通ればよ小入浦よ出ぬ　れ
わざうわ歩ずやと見ぬそ　撥ちぶ
も条まう須ぬれ浦ぬ　ぬ
とし去まおべく　れ
きよ行よ　乃去ぬ
ちうやく去ぬどあぬ　乃
うさよまるをてもぬ

[illegible]
山方れ行かぬ　見と
乃笛の傍の中　れ
神ぬ中よまくく　貴
才ぬ雁ぬ　ぬ
其身命ぬ　わざ
ぬ蒲ぬ　ま
ぬ山
ぬ撫歌枝笛ぬ
乃笛ぬ　ぬ
作ぬ　ぬ
審ぬ　ぬ
ぬ撥ぬ撫歌枝笛ぬ　章乃笛
ぬ　ぬ
ぬ　ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海ぎとみ舟のよるとなく書とまの
千鳥の声もしれ袖も波よりなく磯枕
蛍虫の苫屋よりもかくぶ頂ぶ
そ[illegible]や夕雲[illegible]
[illegible]思ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

木賊

信濃路をとゝさ根衣く日をもおもきもの心うれ　月待

見くハ都乃者ゝく

ど見くよ海ゝ所ゝ乃ゝ国ハ信濃ゝ

人ゝくハ所ゝ乃ゝ文をハ持ゝ今

一京ゝ所ゝ対面ゝ乃ゝ慶由作ゝ者ゝ山ゝ間ゝ

古侍申ゝ作ゝ国ゝ乃ゝ道ゝ

様ゝ開ゝ乃ゝ戸ゝ乃ゝ者ゝ宿ゝ

ゝ宅ゝ乃ゝ行ゝ者ゝ

ゝ者ゝ乃ゝ月ゝ者ゝ木賊

路ゝ乃ゝ山ゝ

木賊ゝ山ゝ乃ゝ名ゝ

ゝ者ゝ秋ゝ

散ゝ

面白ゝ

鄙ゝ

ゝ山ゝ野ゝ乃ゝ

ゝ乃ゝ木賊ゝ

野ゝ青緑草ゝ乃ゝ

ゝ者ゝ事ゝ

ゝ有ゝ信ゝ濃ゝ路ゝ

ゝ橋ゝ

ゝ露ゝ

有ゝ乃ゝ

ゝ者ゝ木賊ゝ

ゝ者ゝ

[illegible]秋の夜の月歌[illegible]

いまもかつらの立ちのぼる

[illegible]衣きりぎりすやく[illegible]

[illegible]木賊[illegible]きぬの麻きぬ袖ぬれて

[illegible]露[illegible]

[illegible]心の[illegible]

月を見[illegible]

[illegible]木賊[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]方[illegible]

[illegible]

木賊を刈持ちたるは、[illegible]

わさんとて、[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

安を手ふる洗耳ハ子ハ一人持くん
を行ふ[レテ]ぬ人よりうちれ[レ]ぬ
先ひてくだりをゆく忘[レ]ぬ男ハ洗
耳ハ岩有をかくぶきれ人をとゝあ
トハ[レ]ぬ[レ]ぬ茅小奇曲茅よりをさて
なゝと集ゐ茅うしんひ狂よ洗耳を
耳ハ茅唄ひ[レ]ぬ有ハ盃をし手をと
いうに申ハ少[レ]ぬ耳愛神ふ親ふ
行[レ]ぬとれ耳のを洗耳親ふて高ハ
とやをうハ[レ]ぬ[レ]ぬ茅ゐ[レ]ぬ[レ]ぬ
いや物男子卵ふハ[レ]ぬ[レ]ぬ
ハ[レ]ぬ入へ心得ハ[レ]ぬ僧達
よハ[レ]ぬ夜長よハ狂よ酒を物て
しまりてハ[レ]ぬ悲ハ物[レ]ぬ飲酒ハ

仏ハ[レ]ぬ飲酒を佛の戒ハ
去事ハ[レ]ぬ彼廬山ハ惠遠禪師
虎溪をさゝ[レ]ぬ禁をよ陶淵明ハ
去て飲酒を破ゝ[レ]ぬ
よ[レ]ぬ茅典酒宴ハ戯
ゝ老を[レ]ぬ
給ふ廬山ハ
ハ[レ]ぬ
ハ[レ]ぬ
ハ[レ]ぬ

[illegible]

銀杏

朝の五ツ時ばかりに、[illegible]

[illegible]

二人の中間の[illegible]

[illegible]

親は子ゆえ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

火宅の門をや出でぬらん　久身の宿の
風き車やるかなさらでやまれ
うき世は牛の車のごとくにぞ
あるらん　化輪の車のごとく
衣類器物を出やしぬ人間の名字色義
泡沫のごとくにぞ
夢とぞ覚るべき愚かなりけるかな
人々この狂ぞかくぞ思ひもやらぬ
我思ひもあらぬ　我ぞ捧の
弓よ恐霊の見しを
意鬼や入りとくとく思べ車の我海
月とぞ
蜻蛉捧の弓の
立
捧の弓

しるべくぞ捧の弓の音いかばかりぞ
あるまやの妻ぞ
海なりきばかり人もあり　不思議や
なりけるもあり　簡の
ぎ車にて
きの女房とぞ
車の輪よりさばかりぐ
給ふ痛やさよ若かれの人
大方打ちてぬ
大海婆電光の境
ぐ
ぎ
ぎ
ぎ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金剛夜叉明王　中央大聖不
動尊　毒蛇　護二夏安　摩訶曰羅　敬施
陀摩訶　嗢　遮那　婆多　耶　咩多羅
吒　千　聽　聽　説者得大智恵知　心
者即身成佛　ありがたく　おがみ　奉り
般若　ぞ　怨　霊　山のう
ま　も　多　度　讀　誦　乃　苦　と　文
時　ミ　く　悪　鬼　心　て　ゆ　ぞ　要　摩　義
悲　乃　海　て　善　薩　も　よ　教　迦
と　仏　得　脱　乃　ぞ　ま　り　ゆ　ぞ
有　難　き　く

論藏

第　東　よ　踏　る　法　乃　道　く　遠　ぬ　ぞ　く
頼　ま　也　尋　ね　給　乃　寧　者　よ　居　住　し
僧　て　し　我　若　年　し　昔　う　仏　法　修　行　の
志　深　う　く　も　ま　都　と　ん　ぞ　し　の　程　よ
洛　陽　し　寺　社　よ　巡　り　ぬ　ま　北　野　乃　天　満
天　神　ぬ　詣　社　し　一　神　乃　徳　の　あ　し　ま　満
や　り　し　と　唯　今　思　る　立　て　し　の　程　し
法　乃　為　め　と　思　る　立　ち　く　雲　路　よ　つ　く　天
し　承　出　る　日　景　の　程　も　あ　く　難　渡　し　う　よ
義　し　ば　尋　ま　う　や　て　程　夜　ぬ　も　し　変　れ　ぞ
程　も　あ　く　都　な　も　や　く　意　よ　ま　り　く
意　し　の　程　よ　都　よ　出　て　し　尋　ま　う　小　野　よ
ま　う　ぞ　と　思　る　し　方　経　や　釋　迦　一　代

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]僧[illegible]ものまんとへおもひきたりて所
事をのべんとおもふ父母共に胎
門をいでゝ[illegible]五戒をたもつべし
[illegible]道俗[illegible]
其功既年久[illegible]
[illegible]大唐[illegible]傳法
普建普[illegible]
[illegible]三人[illegible]
値遇の縁[illegible]
[illegible]経[illegible]日本[illegible]
[illegible]法[illegible]舟[illegible]
[illegible]果[illegible]法
[illegible]の[illegible]寺[illegible]
[illegible]

[illegible]類[illegible]稱[illegible]人[illegible]結縁[illegible]利益[illegible]
[illegible]家[illegible]
[illegible]家[illegible]行
道[illegible]利益[illegible]
[illegible]
[illegible]の
[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜覚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しかうして分ん動やあ出来なりぞう
都ゝり出かゆゝう　ワキ　ちやうくゝ
方抑ゝ見ハ匠出来れ量ハ仕へなる白
下ちるゝ出ておよ三うゝれ報中太書
命めてゝ記樂をかうゝ由思ゝ意分を
給ゝ思ハんゝしまれゝの宣旨也彼者ハ
ゝ私ゝ考ゝ教へゝる　シテ　拙ゝ物使ゝ出ゝ
ゝや意有難ゝ思ゝ教ゝて出ゝゝ報を
ゝゝ出ゝゝ出ゝゝ出ゝゝ出ゝゝ出ゝゝ出ゝゝ
ゝゝ真使ゝし彼者の花ハ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

若義[illegible]の思ひもよらぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

根の月数つく山たうげをこし相
模の津へ出ぬ　三里　日坂宿
[illegible]
[illegible]や相模の国にて
鴻の出てゝ此浦の者とあそぶ
由をきゝ[illegible]やとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天数の夫婦は神なり龍は月なり神は
龍の夫婦なるべし月は夫婦の行導
光をうけて顕はれ出るなり
つゝ和合なるべし
軒とさゝつゝ長儀の英籌を投ずるが如
し龍は常住不変の
不可思議の功徳を顕はす
天数
月を照す意は宝珠のごとくなり
月は
宝珠と君とは
下和なり
宝珠を君よりもとめやすし
願の
十五夜
のごとくなり
方便なり
福寺圓海の
観寺
楽後生
宝珠
天人
菩薩
五頭龍
頭龍玉
龍の
五頭
胡舞
服

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]枝を裏求[illegible]ぎりたるあて
風もなし　是は當國萬城や
ぶく者の社中と清めの者也[illegible]
やしき和[illegible]の始めとく[illegible]
あれの時とて[illegible]
お忌[illegible]袖白めの木綿たゝみぬ
[illegible]
つ道とくお高殿のすゝ祝[illegible]
[illegible]
[illegible]
和光の新[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]社[illegible]
[illegible]皆故[illegible]
と数へ[illegible]
の宮居。都の賀茂と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆ不審ふ人とよ賀茂の社とは
ゝ山ゝ多ある冠開以来の新向の
始め先葛城の賀茂神あれば宮居
ゝて夜ゝてゆゝもの社とゝ人ゝ
ゝゝ見い那り也まづく家物語
日吉向宮ゝ流ゝれの賀茂神
ゝ侍天下平安城ゝ移れ給ふ
の神山 長神の名と紙の行ゝ
ゝ代ゝ治ゝ七りの道も
すくふ ゝりるゝ 金ゝ
名ハ葛城の賀茂神ゝ代
とまゝゝり名法滅亡ゝ
ゝく四海の浪ゝ治りて国富民ゝ
豊なる陰ゝ増ゝ幸ゝ

先君ゝ母尼の水ゝ
ゝ尼ゝゝゝゝゝゝ
ゝ城ゝ治ゝ
ゝ名ゝ
ゝ陰ゝ
ゝ動ゝ
時ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

れと願きて。只へう家に来りて荒
面白の秋遊やか　櫻ゆ菅城山
よふる雲は　まわく紅葉　黒ほゆる
れ　紫きみそのこもの空　見は
　月の光　雪や消く　仁舞
つ袖ふるき大和舞柏子を持て面白
　有難やありがたや。天下泰平楽
とはいふ水舞の中の光　遠敵の舞
をのゞまして上下万民舞遊ぶ　梅万
秋楽とは　蛭子天の楽うて見
仏法僧舞ふ　雲方雲の舞上
雲鶯を舞ゝ　秋来る雲の
景みは　秋楽とまうふ　舞
よ朝くとう色は楽くと響きい

ばを長声つゞけぬ　地見を申べ
しかれ鶴鶴の四方の国道ある神
代に目出たく

九世戸

風を凌しき猿田彦のかみ立道
そなるまこと 神代を賞うる仕へ
なる戸とし 俗を丹後国九世戸い
神代の古跡にて 天生立宝山
の文殊を勧請の地 ひ林鐘半ば
頃今詣では有り 程なく見つる指出
敷ものいち 雲ぞ赤 るくしるるくく
殿の内 雲日もいくら 野の道の程
殿の内 雲日もいくら 野の道の程
ときぶ 椿立やや
九世の戸 道ゆくく 晴
思い程 見ぬや九世の戸
郡 椿立

お詠めやとあの浦風を
へてとしてもや 海
海出入 可うく 墨
の海のあま 椿立遠
道 へ
て 月の手行 海
潮 墨 有 猛き
世 こと 神の代 昔 思
ぐ 月日 墨 天津神地神
やとうぞ 九世の戸
もきこ 聖文殊 紀 潜
うう ぐ 海のとき 穴く

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まぜの元はじめの為のぎょうと
御結ぶの人り　門をいれ地かいびく
乃ぶりぐや神国とあるひのき
きう法ちうり法ぐの元生源者
乃方便ちうしのりうと拝ん
三世うくもの大聖文殊を祈るよあ
ぜうちぎのひろう　法橋立を作ん
と縁徳あり　是法は神乃代いまし
ちうくび雲霧虚空よりうくて
とうあうとくかーうば暫しばと
ぐそして日わ去とちとびて同
く松とうへの是ちり次乃あ
まりとかりちょうと際のひしうり
人置乃場ちうく是も故ある神可し

角で神くあり　天竺立量の
文殊と御諸りうへかこいうちやう雲
とわきぢちいト界乃竜神宮樂
種ぐ乃ぢ拝ぢ拝ぢ拝ぢその
意向乃有根ぢとぢ乃ぢ
宮有縁き神乃代ぢく首ぐう
そしこれ世ぢ乃ぢとぢ次くちうぢ
ぢ沖島と松乃本浦ぢ乃ぢ
乃ぢを更行浦乃ぢ旨ぢ
待ぢ乃ぢ乃ぢ乃ぢ乃ぢ
や和ぢう計ぢ乃ぢ浦ぢ乃ぢ
と名ぢ乃ぢや　今乃行ぢ乃ぢ
ぢ我ぢ乃ぢ乃ぢ乃ぢ大聖文殊の
ぢ前ぢ乃ぢ乃ぢ乃ぢ

言心清浄の心をかんじ給うと
いへども其ゆへは水の流れ炎は
きりく久敷の雲所よりなる橋真
天津こゝろのびんをはじめ月を更
り天の原くまなき雲のはびこる美書
くんで清しの女の羽袖をえ
ぬあるは物をはなれ蛇の相より天像
おろくるかりけるべき竜宮より
指る所の光海よりうつりてんへ
ちて国のあるこゝろ観ゝ
大千光あるこゝろ物の竜宮の
仏眼を也 空よりの月ちうあ
ぐく又下界の人竜神のこゝろ
国よりうつりたまへり

いとかやきいちうして天地の物
ひとりよりあり此世の戸れ
ぐく竜神のあり
自在よりく通力多くのこゝろ
とんきんとの平地もくんをあり
仏滝山虚空よりあるこゝろ
とけて雨となりて流れくこゝろ
くこんどうもまれたる物のこゝろ
仏あるこゝろのあるこゝろ
津しの雲海も雲所の人
又竜神の波をこゝろ
国のめぐりあれくこゝろ
そへよきの

道中

津やゐとふと錦唐錦なく龍田山
神ふしまつ姿　拓是の當今うす
仕へ世ふ后下也。扨も和州龍田の
明神の奥神ふく宮仕ふ狩ふ洪隆
君ふ序聞とゆ。只今龍田ふ来給
仕り作る國とのまへ七りの新路を
ぐく深く出く定毋や立撥衣
もくくやの雲ときの山城の丹
手の下ひも来う市。源をしり
ふ高ふ坂や龍田のゆ後ふ志ふ宮を
く龍田川ふ錦ふく神ふ
風色ふく秋ふごまへ。ふ染
ふ時めて源ふとまる。乱矢

ふ郡　是ハ愛社ふふの里ふ
住ふくくて者ふか農鍬なふ
昔ふり神前ふ仕へ世ふ宮ふ
新田ふ神塩や宮路を通ひ
ふくたの山移ひを懸ふ
を代と祈ふふり出ふ長月ふ
田ふまり紅葉もふふふ
ふ夜のふ紅ふ神ふひの
ふふふ岸やふふ岸ふ
田の川表水の色ハ濁ふふ
てふな廣ふふふる神ふ
ふふふふふふ家ふふ
色ふく撥ひふふ龍ふ
ふ神ふふふふ

火の光アラはいく尋ノ[illegible]
此方ノ事ヨリ行ヲ[illegible]
是ハ洲ノ始ノ一人ノ者なり。莫山
ヘ道ヲ[illegible]て給ヒ久
[illegible]の[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]て[illegible]此方ヘ[illegible]
出ル
[illegible]
[illegible]
[illegible]

某ほとゝぎすとりて、師やたゝ
ふかしらべ、滝系の、昭和法華
とゝりくれども、洗法山す
おかめて、寒の山と号し也。杉
師弟の道きりし名、いきき
滝まつりの、神巫狂いづくそとや
へ名残し、龍田山、紅葉の八葉巻。
別弟のたゝえより、題を目新やく
きあひの光アさ、杉の落
ぬ光つちすの日なる事を、寒うそ
たゝえ、たくたの寒れ山をる
よくく、孔子やう、詩田巻
神の名つゝく、寒の師弟同じく
有とくて、ゆせ給へ、山つゝの旅

人や、新たつゝ、龍田山の、みち衣
つゝ早振神の、柴をもめ、と
朝も同ト、滝系の、名残なりと
ぬ編四、あひ、一、排紫をとる
笑よりく、の、哀を、すゝ
入とて、失ふきりく入とて
うをふ、師の、ゝの、
加ゝ、きく、寒よかり、祝の松
り、言葉、光、り、寒
ぬ、きく、集よ、
てこと、生の、舞の、袖、
く、招、天、師弟、譲
し、光、出、

龍田の神あらしの天津みそらの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
り毎日光でるる日の本を寶の山
ふ影田の神をくるるつかせて
つの神ふ神[illegible]身りの[illegible]地

西王母

有羽や三夏五帝は昔よりべべ此
神代より重なるまでかの雲まのた
めしなり其[illegible]光の日はてやく
[illegible]神四月海のそこよりいうた
廣き山めくる天のかやま地り
そうて小辰の興まれ殺くれ
[illegible]天の四つ星はくや百官相撲雲
客やの千戸[illegible]
をくるる[illegible]門追ふ[illegible]
市[illegible]銀珠[illegible]
うやくて日本の勝ふて[illegible]
[illegible]見地[illegible]
[illegible]桃李物[illegible]

[illegible]

面白や四季折々に付けて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
時や至りぬれば二千年よりの後花心
[illegible]
[illegible]
君よりきしいざく君にさくら
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道明寺

第[illegible]

[illegible]

[illegible]

又いかなる音ならくや松風のうらむるこゑ
[illegible]　見まほしたる者へ見せ給へ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

仏住まの心さし深く懇なりしかば
五畿内河内国志摩寺に天神の社
すなわち彼寺の神仏を初めたまひて社
の神とを勧請ありきとうじ天神の
御座は西二世の馬立部の大宮
殿を立て供養して堪ちまうしたりしを軸
とう木槵樹の木生ひたりしを
とう枝殊にくべ金剛百万反唱
住まし給ひしかば寺の長老
ぬぎ捨てたりしを御寺の長老
新たに彫させ給ひ社の
乃へとて申さしめ給ひ
きん木槵樹とて申さしめ給ひ
出でぬ

見に神仏をまもりまして社の神を
とりたてさせ給ひ成り天神
出でぬ
かくりの木槵樹とて仏
仏有難や神を仏も同
天神の御結縁
て聖の御
神仏の御値
天神と共に地蔵世観音
西方弥陀
三尊利益同
青山に水波の隔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雨乃[illegible]拇が絃[illegible]

[illegible]

絃小[illegible]

蹴韻[illegible]第三弟四絃[illegible]冷[illegible]

てうの鶴[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

身命をおしむ人間有の物哉ぞ[illegible]
中に頼られて同宿を津の吉執のゥく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

給へべうの人をつれて来りしとそ今さ
行てそうつ山ぬけて見れば海さ景色他
に入りそうに一樹の蔭に夢中乃対面尚
絶えもあれば夢たりしに入まれて海を
ゆくもそうすれば玄蛇のようにつてき
るりたるぞ給へしやうとまれた
上翔 入れ乃うたきのせめぎれ御給よ
はるとは 早上 空くんまれたそうや
ぶるたる雨もりかの 天地そう
もめくるく 山も震動 海もあり
雷鳴もみれ悪風 烟乃旗
をなびくして婚家かるまり
乃船をたるく水をつ 星海乃
皆御船だれまつ成めぶいりに

海や 上 まるるる心をもりめくまれ
上 たるるるるるれ 婚 上 梅 梅 梅
家寵たる若武士 合 入 入
梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅
梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅
梅 梅 梅 梅 梅 梅 梅

秘儀にて行くとしたれども、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

巴

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あの[illegible]おぼ[illegible]
同じ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝさびたる嵐山をわたる船の
音もとゞかぬまでこぎはなれぬるそ
こゝに社ありて神恵あれば
乃幸福をもあらはしたりとの神恵を
[illegible]
みゝ野乃神風あらはしたるの所
[illegible]
[illegible]
[illegible]